



飛鳥山お花見
日本ポストン会お花見の会 2019. 3. 30

日本ボストン会お花見の会 2019

開催：3月30日（土曜日）雨天決行（レストランがキャンセルできないので雨天でも決行）

集合：JR 京浜東北線王寺駅 中央口改札（改札を出て左手すぐの所で集合） 10:00

参加者：鶴ご夫妻、関ご夫妻、藤盛富美子さん、中埜ご夫妻（お花見のみ）、篠崎和子さん、俣野ご夫妻、土居陽夫さん、幸野眞士さん、森裕子さん、生田、田部さん・遠山さん（生田友人）、小野田夫妻、森川ご夫妻（小野田友人）、計 20 名

行程：10:00JR 王寺駅中央口改札出口⇒飛鳥山山頂（標高 25.4m 東京で一番低い山）⇒11:00 渋沢庭園⇒11:30 音無親水公園⇒王子神社 12:00⇒12:15 北とぴあ⇒12:30 宴会場 16F にて会食開始⇒解散 14:30

添付の地図をご参照ください。

会食代：4,000 円（飲み物代は当日各自別途）

飛鳥山は将軍吉宗が江戸庶民の健全な娯楽の場を提供するために桜を植えお花見の場とした所。飛鳥山西端には渋沢栄一の旧宅と旧庭園。音無親水公園は小さいながら日本の都市公園百選に選ばれた公園。王子神社は王子の地名の元ともなった荘厳な神社。七部咲きの桜を愛でながらこれらを巡り、懇親会場のある北とぴあに到着。飛鳥山・王子の俯瞰と和食膳を楽しみ歓談。

以下は森裕子さんによる報告です。

案じていた雨の気配もなく、飛鳥山、音無親水公園などの桜の名所を江戸の庶民の娯楽や生活に想いを馳せながら、お花見を満喫できました。16階にある懇親会場からは辿った場所がパノラマのように眼下に広がり、今回のお花見のよいまとめになりました。

今回、会員のご友人達が参加されたことは、ボストン会に新鮮な息吹きを与えてくれたように思います。

解散後、篠崎夫人、森川さんご夫妻と私は、渋沢栄一の晩香廬、青淵文庫、そして渋沢栄一資料館を見学しました。晩香廬は本会会員藤盛さんがその移築プロジェクトに精魂を傾けられた建物とのこと。渋沢栄一は政治や実業界にとどまらず、社会福祉や女子教育にも尽力し、母校日本女子大学では 93 才で亡くなる直前までの 7 カ月間、第 3 代校長を勤められた由、そのエネルギーと関心の広さ、志の高さに感動しました。このような人材が今の世に輩出することを願いました。

日没も近づいたころ、篠崎夫人と私はタクシーで駒込の六義園に向かい、10 分ほど並んで入園できました。ライトアップされた「えどこひがん」しだれ桜は滝が流れおちるように咲きほこり、華やかで圧巻の情景でした。篠崎夫人と私は、今までこんなに素晴らしい桜は見たことがないと、息をのみ、顔を見合わせ、しばし佇みました。庭園の奥の

方にある背の高い桜は、ライトアップの色が変わり、しだれ桜とは違った幽玄な佇まいで、能の世界に引き込まれたように感じました。2本の違った味わいの桜ではありませんが、どちらにも桜の精が宿っているようで、10日ほど前に国立劇場で観劇した歌舞伎が瞼に浮かびました。来年のお花見の候補の一つに、六義園の夜のお花見を提案します。

お花見の会とその解散後の渋沢栄一関連施設の見学、六義園の夜桜ライトアップ見物と誠に充実した一日を過ごすことができました。

飛鳥山公園案内図



桜の名所、飛鳥山と吉宗

将軍吉宗が飛鳥山を桜の名所として整備した。1720年270本の桜の木が王子親水公園付近に植えられ、翌年更に1000本が飛鳥山全山に植えられた。それまでは桜の群落は上野だけだったが寛永寺境内であり、音曲は禁止。1716年将軍になった吉宗は江戸市民娯楽の場所として桜の群落地を整備した。飛鳥山、御殿山、隅田堤等。飛鳥山は紀州から勧進された神社があり、吉宗出身の紀州と縁がある。これらの場所では音曲や仮装も許され市民が花見を楽しんだ。かまぼこ、卵焼きの花見弁当もこのころから。当時の蒲鉾は高級品で1枚10文(2000円ほど)した。1734年には飛鳥山が王子神社の社領として下賜。水茶屋・揚弓場も許可され、庶民の健全な遊樂地となった。

サクラ、花見の由来

サは田の神、穀霊を意味し、クラは神座を意味する。サクラとは田の神が降臨する依代を表す。花見は桜の木に降りてきた神々を料理と酒でもてなす風習がその起源。

飛鳥山パークレール アスカルゴ

2009年7月より運航。斜行エレベーター。車両名はアスカルゴ。延長48m。傾斜角度24度。無人運転。運賃無料。



飛鳥明神の狛犬

飛鳥明神は豊島氏が太田道灌に滅ぼされ一時衰退、その後家光の代に王子権現境内に遷座、再建。戦火で再び消失。

現在は飛鳥山中腹、飛鳥山公園モノレールの飛鳥山公園が側の乗り場すぐ脇の石垣にある狛犬がその面影をとどめている。音無橋川歩道から見るとこの狛犬が見つかる。

あすかパークレール山頂駅



山頂駅でアスカルゴの説明



桜は七分咲き



花見の宴会のための場所取り風景



夜になるとボンボりに灯が入る

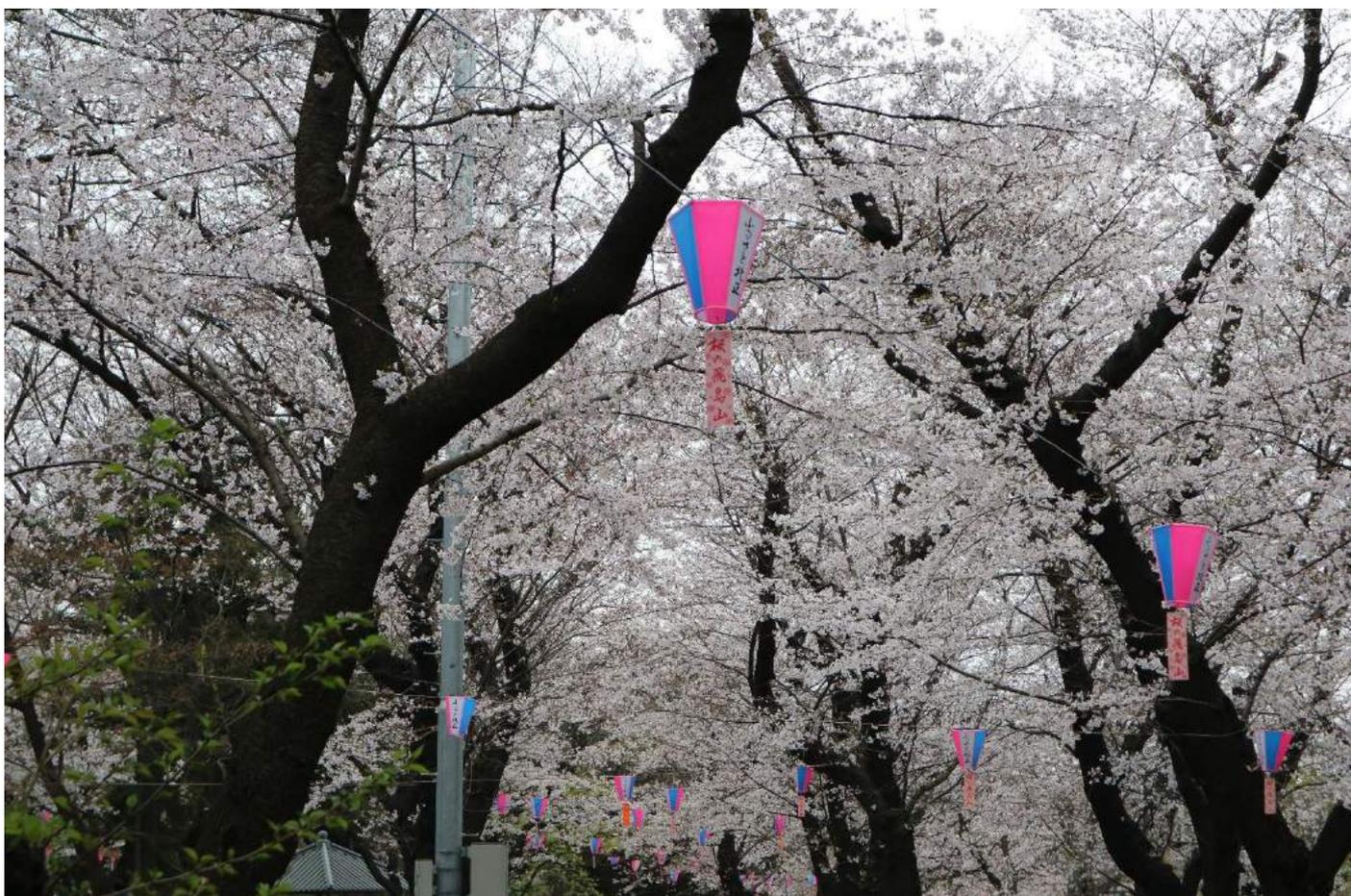
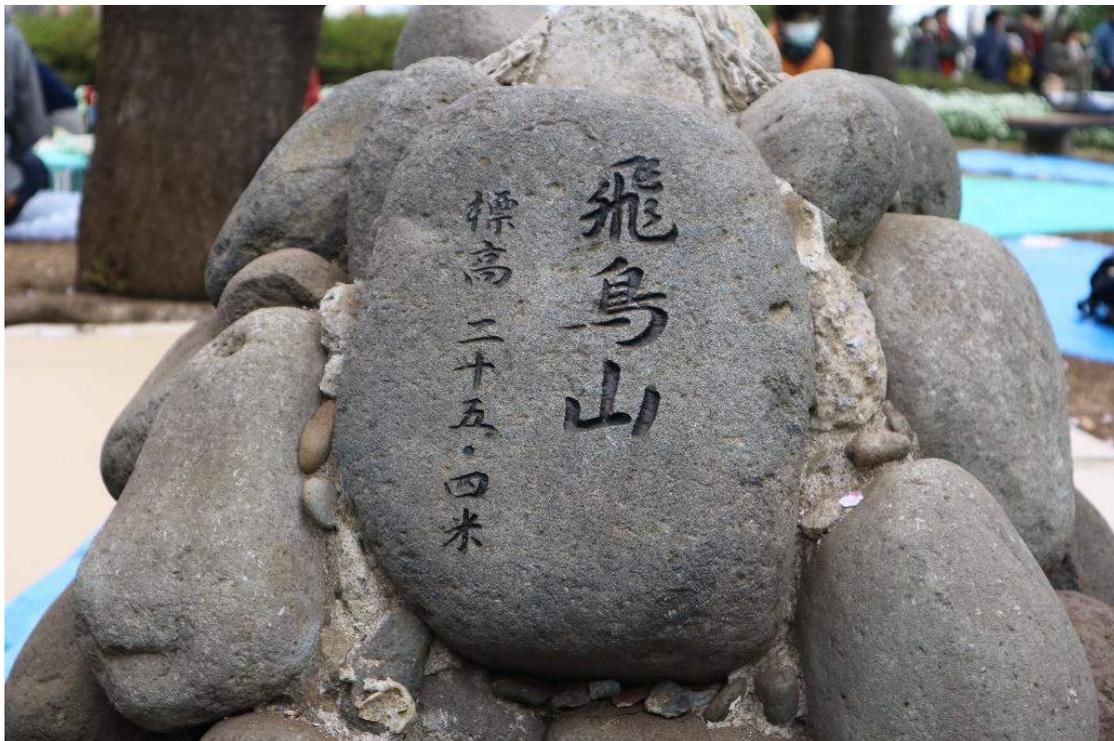




東京で一番低い山、飛鳥山

飛鳥山は武蔵野台地の北端にある。石神井川が大地を横切るように流れ、谷を作っている。このため台地が山のように見えるので飛鳥山の名がある。国土地理院地図での東京一低い山は標高 25.7m の愛宕山。飛鳥山は 25.4m でそれより低い。

飛鳥山山頂標高石



広場の舞台で民謡踊り



飛鳥山碑と飛鳥山の名の由来

飛鳥山公園内に飛鳥山碑がある。1737年に建立で飛鳥山の由来、桜の名所となった経緯が記載されている。碑文は難解さで知られる。碑石は江戸城吹上御苑から運んだ紀州産の巨石。

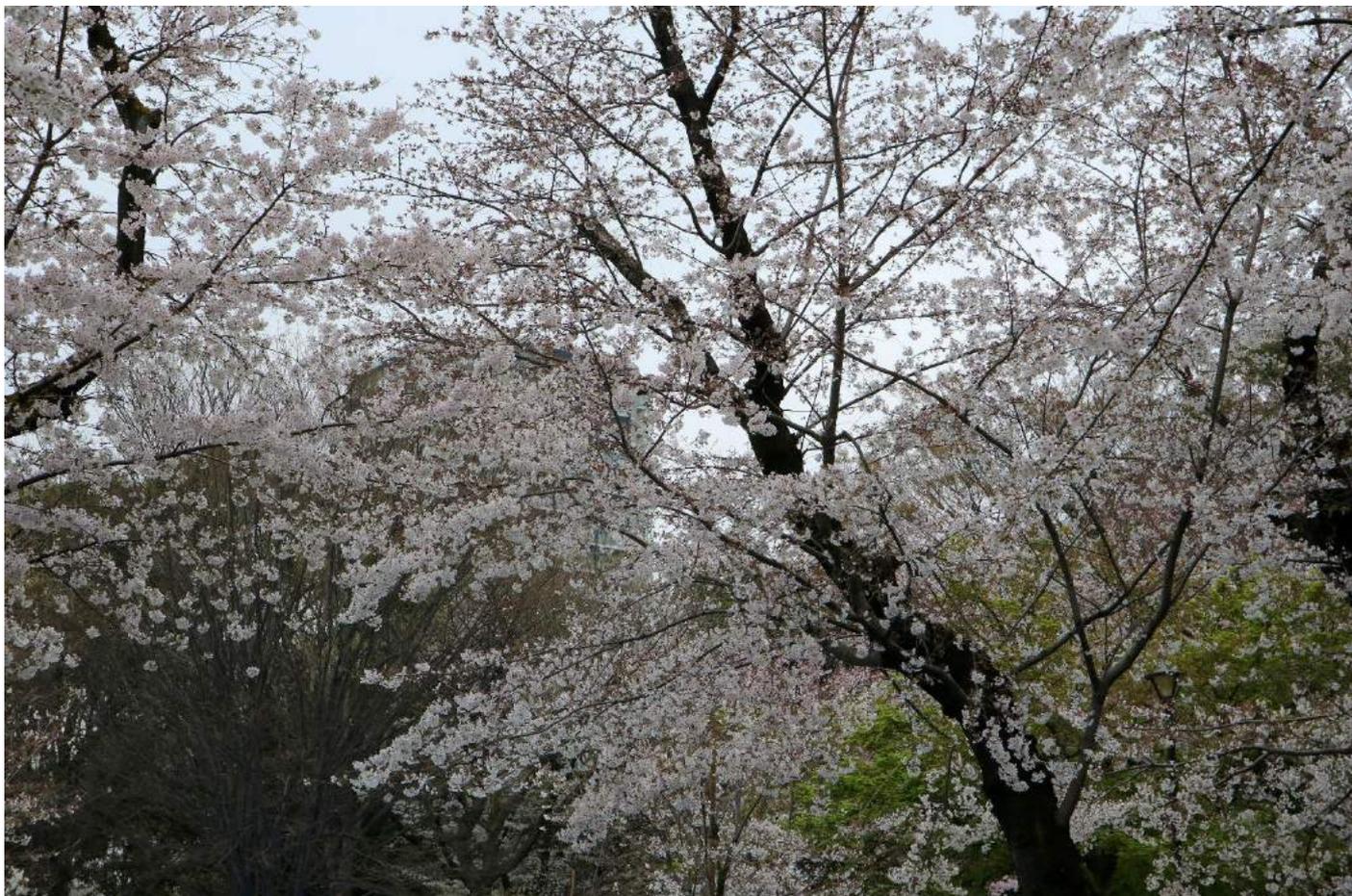
平安末期、豊島氏が紀州和歌山熊野より勧進した飛鳥明神、王子権現から飛鳥山の名前が来ている。



明治三十七八年戦役記念碑 日露戦争勝利記念碑



全員撮影



園内の三博物館

園内には渋沢資料館・北区飛鳥山博物館・紙の博物館がある。三館共通入場券もある。紙の博物館は王子製紙の資料が展示されている。

渋沢史料館



北村西望《平和之女神》（1974.5 設置/高純度アルミニウム）

日中国交正常化を記念して、「日中友好・世界平和祈念『平和の女神像』建立の会」が、1974年5月、飛鳥山公園に建立。台座（後ろ）には、建立の会会長の龍野定一撰、北村西望書による「女神建立の辞」がある。

北村西望は彫塑家。明治17年長崎県生まれ。東京美術学校を首席で卒業。大正5年文部省第10回美術展覧会で「晩鐘」が特選。この年から37年間、北区に居住。大正14年に帝国美術院（現日本芸術院）会員となり、昭和33年に文化勲章・文化功労賞を受章され、日展会長、北区美術会名誉会長などを歴任、昭和56年北区名誉区民に選定。昭和62年逝去。

長崎の「平和祈念像」は世界的にも有名。この原型をもとに造られた2.41メートルの像を北とぴあ前にも設置。

北村西望 《平和之女神》



旧渋沢庭園

飛鳥山の西端にある。無料で庭園には入れる。庭園内に渋沢栄一の銅像がある。庭園内の2つの建物、晩香蘆と青淵文庫は共通入場券で内部を見学できる。

渋沢栄一銅像



青淵文庫

青淵文庫は渋沢栄一の居宅、青淵は栄一の号。



青淵文庫カラータイルの窓枠



晩香蘆

晩香蘆は清水建設の前身清水組が渋沢家へ寄贈したもの、ここへは移築されており移築のプロジェクトは藤盛さんが指揮した。



公園広場



桜 (2019. 03. 16)



都電荒川線のすれ違い



都電荒川線 明治通り



音無橋から見る石神井川の分水

石神井川はここから飛鳥山下をトンネルで抜ける。この右側が音無親水公園



音無親水公園

飛鳥山から明治通りをはさんで音無親水公園がある。石神井川（この辺りでは昔は音無川と呼ばれた）旧流路に整備された公園。日本の都市公園 100 選に選ばれている。中央部にかかる舟串橋は 1958 年の狩野川台風で流された橋を復元した。春の桜、夏の水遊びでにぎわう。

音無親水公園 音無橋下



舟串橋にて全員撮影



王子神社

音無親水公園から階段を上がると、王子神社がある。五柱の神々をまつる神社で五柱を総称して「王子大神」と呼ぶ。源義家が奥州征伐の際に慰霊祈願をしたという。1322年に領主の豊島氏が紀州熊野三社から王子大神を勧請し「若一王子宮」とした。王子とは紀州熊野三社権現の御子神様の総称で熊野古道には多くの王子神がまつられていたという。

将軍家光は体が弱く、それを心配した春日局が王子神社にお参りしてお願いしたところ、家光が元気になったということで王子神社は幕府の庇護のもとにより栄えた。

東京十社の一つ。社殿は昭和39年、57年の造営。王子という地名は王子神社による。



末社関神社と毛髪

「髪祖神」として知られる。ご祭神は百人一首の蟬丸公。姉「逆髪姫」のために鬘を作ったという。また、蟬丸公は琵琶の名手であったので「音曲諸芸道の祖神」としても崇敬。境内には毛髪報恩のための毛塚もある。毛髪のご心配ある方は是非ご参詣を。



王子神社のイチヨウ

戦災で大樹は焼失したがただ一つ「王子神社のイチヨウ」が残った。神社左側空き地にあるこのイチヨウの木のあるところはパワースポットであるという。運氣回復力があるという。東京都天然記念物で600年の樹齢という。



北とぴあ（ホクトピア）

東京都北区の文化施設。最上階は 17 階で展望回廊となっている。新幹線の通過を見るのが楽しみなところ。宴会場は 16 階。宴会場から飛鳥山が一望の元に見える。桜のころは大人気。



北とぴあ 16F 宴会場から見る飛鳥山の桜 見事な眺め



宴会の開始 鶴さんによる乾杯



本日の宴会食 お花見ビールも



全員撮影



周辺の見どころ

石神井川と音無橋

石神井川は小平市を源流域とし、東京都北部を流れ北区で墨田川に注ぐ流路延長 25 k m の一級河川。板橋区中板橋辺りから北区滝野川への区間が桜並木になっている。

音無橋の所で流路は新しく作られた分流路に入り、暗渠となり飛鳥山下、JR の線路下を通り、高速道路下に現れ、隅田川に向かう。音無橋からこの分流路（現在の主流路）を見るのが面白い。

また、音無橋から音無親水公園の桜が見事に見える。そして、そこから音無親水公園へ降りることができる。

音無親水公園から上流へ向かえば石神井川の堤を歩くことができる。少し歩けば音無桜緑地を通り、桜を楽しみながら、昔加賀藩の下屋敷のあった加賀公園を通る。さらに上流の中板橋方面へ向かいお花見を楽しむことができる。

お札と切手の博物館

国立印刷局の博物館。お札や切手の歴史や技術の変遷を展示する。入館無料。

王子製紙

王子の地に 1873 年「抄紙会社」が渋沢栄一が中心となり設立された。1893 年「王子製紙株式会社」となった。王子製紙紙業資料室の資料を一般公開するために「製紙記念館」が作られ、その後「紙の博物館」に移行した。

王子稲荷神社

王子神社を東に行くと王子稲荷神社がある。初午の「凧市」が有名。「火防せの凧」「凧市限定御朱印」が人気。その奥に小さな社があり、大きな石が鎮座。願い事を念じてこの石を持ち上げ、軽ければ願い事がかないやすく、重ければかないにくいとのこと。

「お穴様、狐穴の跡」があり、ちょっと高いところにあるパワースポット。大みそかの晩に東国一円の神様のお使い狐が王子稲荷に参拝する。狐たちは先ず装束櫃に集まり衣装を整えて王子稲荷神社をめざす。大みそかに大祭「狐の行列」が行われる。

石鍋久寿餅店

王子稲荷神社への参拝の際にはぜひ寄りたい。明治 20 年創業の老舗くずもち店。葛餅は 2 年の発酵を得て作られる。売り切れるので食べてから参拝を。

旧古河庭園

飛鳥山渋沢庭園側から徒歩15~20分ほど西にある。かつて古川財閥が所有していた庭園。バラの洋風庭園と和風庭園がある。北側高所にはジョサイア・コンドル設計の瀟洒な洋館がある。洋風庭園も彼の設計。この場所は元陸奥宗光の別邸があり、その次男潤吉が古河市兵衛（古川財閥創業者）の養子になり、古川家二代目当主になった。三代目虎之助の時にこの洋館と庭園が造られた。今はバラの名所として知られる。洋館一階には喫茶コーナーがある。

ジョサイア・コンドル設計の洋館



庭園案内図



日本庭園



六義園

古河庭園からさらに徒歩 15-20 分ほどで六義園がある。入り口近くの大きな枝垂桜が人気でライトアップもある。

解散後の周辺散策候補

王子稲荷神社

石神井川桜散策

お札と切手の博物館

飛鳥山三博物館、渋沢庭園 2 棟の建物

旧古河庭園、六義園

都電荒川線曙橋下車で神田川花見

第1版作成 2016.04.05

飛鳥山お花見

日本ボストン会お花見の会 2016.03.30

写真 土居陽夫、小野田勝洋

編集 小野田勝洋

印刷製本 SHIMAUMA PRINT

©2019 KATSUHIRO ONODA